

子育てコラム 36

「交通安全」

小学生の交通事故が後を絶ちません。警察庁交通局の調べで、事故が多い時期・時間帯は、月別では最多が5月、15時台、下校中に多く発生しています。小学1年生の歩行中の死者数は小学6年生の8倍に上がっています。小学生の交通事故は横断中、そのうち横断歩道での事故が約4割という現状です。私たちは子どもに、必ず横断歩道を渡りなさいと伝えています。辛い現実です。

私たち大人は、子どもたちに交通ルール遵守の手本を示していきましょう。親が車を運転する際に、横断歩道に立っている人がいても止まらない様子を見ると、歩行する際に車の間を縫って渡ったり、横断歩道で手を上げなくなったりします。大人は歩行者であり運転者にもなります。横断歩道を渡る、車は止まる、これは鉄則です。子どもたちに、思いやりと感謝の気持ちをもった良識ある歩行者と運転者の姿を見せていきましょう。

映画などで運転手と助手席の人が2.3秒顔を見合わせて会話している光景をよく観ますが、「危ない、前を見て」と気になります。車が時速 50 kmで走行した場合、2 秒目を離した間に約 30m 進みます。極短時間スマホへ視線を移した時間も車は進んでいます。大事な命を守るために運転中は安全を意識しましょう。

小学生になっても、横断の仕方や歩道の歩き方、そして子どもの目線で危険な交差点などを確認して教えたり、車両（特に大型）から子どもは見えにくくなることなども教えていきましょう。子どもは大人の行動をよく見ていましたし、習ったことは一生懸命しようと努力をします。

交通安全について子どもに教えるとき、大事な体についても話をしましょう。あなたが皆から大切にされていること、命を守ってほしいことも伝えていきたいものです。

次回から、性教育(命の教育)についてお話しさせていただきます。